

D-2 グループ化された時間変数と離散型交絡因子
を考慮した相対危険度の推定と測定誤差の修正

九大 絹川直子*
長崎大 中村剛
九大 野瀬善明

長期追跡研究におけるリスクレスポンス関係を推定するセミパラメトリックな推定法を検討した。離散型交絡因子を持ち、エンドポイントが一定期間毎に観察される状況において、リスク変数の測定誤

差を補正したリスクレスポンス関係を推定するためのカウンティング・プロセス・モデルを構築し、フラミンガム追跡データに適用した推定結果を報告した。